

まずは理解しよう!

外国出身保護者は
こんなことに困っています。

point
1

日本語がわからない

少し日本語が話せても、読み書きはとても難しいです。保育園の書類はどれが重要なのか見分けられません。特に手書きはわかりにくく、翻訳アプリで読み取ることもできません。アルファベットを全く使わない日本語は、ネット検索するためのキーワードもわからず困ります。

point
2

コミュニケーションの不安

保育園での子どもの様子を知りたいのに、外国人だとあまり話しかけてくれないと感じます。先生に負担があると思いを上げにくいです。子どもに通訳させる、日本人配偶者にすべて任せるとすることは、できればたくありません。

point
3

文化の違い

保育園で毎年行われている行事が何なのか、なぜ行うのか理解できません。日本人にとっては当たり前かもしれませんが、出身国の考え方が違うので、驚くこともあります。簡単に説明してもらい、自分で調べる方法を教えてもらうなどできれば嬉しいです。

外国出身保護者という名称について

「外国人」という言い方は、どの国に国籍があるのかということに注目した呼び方です。たとえば日本国籍であっても、外国で生まれ育った場合は日本語がよく理解できないこともあります。ここでは「外国出身保護者」という名称を用いることで、日本国籍であっても、そうでなくても、多様な背景をもつ人々を表現できるよう心がけています。

このパンフレットは、外国出身保護者の方々を対象とした、以下の研究で得られた知見をもとに作成しました。

研究タイトル

外国出身保護者が保育園で感じる困難さ
— 保育園の情報提供に関する現状と課題 —

研究代表者

那須ダグバ潤子

京都橘大学 看護学部看護学科

連絡先 ▶ nasudagba-j@tachibana-u.ac.jp

共同研究者

松本佳大

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

連絡先 ▶ thlbhym@koto.kpu-m.ac.jp

市川徳子

京都先端科学大学健康医療学部看護学科

連絡先 ▶ ichikawa.noriko@kuas.ac.jp

言語文化的に
多様な背景をもつ子どもたちが
安心して成長できる社会を目指して

保育園での情報バリアフリー
へ向けた3つの提案

外国出身保護者への
より良い情報提供の
ありかたを考える

保育現場は

多様化している

どちらか一方の親が
外国人である子どもの
割合は3%¹⁾!

「外国出身保護者が
困難を感じるのは自己責任」
ではありません。

みんなで工夫して、
全ての人が住み良い
社会を作りませんか?

出入国在留管理庁の在留外国人統計によると、在留外国人数は2020年6月末現在288万人と日本の人口の2%程度を占めています。子どもの出生数においては、少なくともどちらか一方の親が外国人である割合は3.1%に達しています¹⁾。

法務省は、2021年度の「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」の中で、円滑な義務教育諸学校への就学へつなげるため、外国人の幼児について幼稚園、保育園等への入園を促進することを明記しています²⁾。

外国出身保護者への対応力向上は、もはや一部の保育園の課題ではなくなっています。多くの外国出身者が日本社会の構成員として生活している中で、私達は今、何をすべきなのでしょう。

参考文献

- 厚生労働省(2014)平成26年度人口動態統計特殊報告「日本における人口動態-外国人を含む人口動態統計-」の概況。
- 法務省(2021)外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策(令和3年度改訂)。
- 日本学術会議地域研究委員会多文化共生分科会(2020)提言「外国人の子どもの教育を受ける権利と修学の保障-公立高校の「入口」から「出口」まで。

困りごとを解決するための3つの提案

point 1

日本語が わからない

- ★ 提出物に見出しをつける
(タイトルだけでも英語にする/クラス名の絵をつける)
- ★ 重要なものにマークをつける
- ★ 配布物・情報を電子化(PDF化)する
- ★ メール・アプリを活用する

日誌は「DIARY」とタイトルを書いてくれると、どれが日誌なのかわかります。

重要な書類には「IMPORTANT(重要)」「URGENT(至急)」などのマークをつけてもらえると見落としません。

日本語でパソコンで入力してもらえると、自分でコピーペーストして、英語や他言語に翻訳することができます。

言葉で説明されたことでも、あとでメール・LINEなどで連絡をもらおうと、自分で翻訳しながら、ゆっくり理解することができます。

point 3

文化の違い

- ★ 行事について簡単に英訳する
- ★ 調べるきっかけを提供する
- ★ 年間行事表にローマ字を併記する

行事について英語に訳したものを準備しておく、毎年使えます。

たとえば「HINAMATSURI(ひな祭り)」など、キーワードだけでも英語で書いておけば、インターネットで調べられます。

ひな祭り、鯉のぼりなどの文化的行事のほか、運動会、バザー、卒園式も外国人には馴染みがありません。簡単に説明してもらえると嬉しいです。

保育園の 先生の声

朝と夕方はすべての保護者と話をする時間が欲しいと思って頑張っています。外国出身保護者に対しては、わかりやすい日本語や片言の英語を使って、身振り手振りで伝えるように努力しています。

日本語が読めない外国出身保護者におきて、日誌に写真や簡単な英訳をつけて伝える努力をしていますが、保育時間中に英訳する時間を確保できればうれしいです。

他の先進諸国のように、保育にゆとりがほしい。日本でも外国出身保護者のために通訳者をつけられる制度があれば、皆に良い保育が提供できます。

point 2

コミュニケーションの不安

- ★ 日本語でゆっくり話しかける
- ★ ジェスチャーを使う
- ★ 自動翻訳機・翻訳アプリを使う

日本語ができない親でも、気にせず声をかけてください。

日本語でいいので、ゆっくり単語をならべ、ジェスチャーを使って、子どものことを伝えてくれると嬉しいです。

先生たちがスマホの翻訳アプリを使ってくれると助かります。

伝わらないときは紙に書いてコミュニケーションをとってくれるとありがたいです。

これって外国人だけの話ですよ?

いえ、実は日本のためになるんです。

子どもは人種を問わず、日本の宝です。日本以外のルーツをもつ家族とのかかわりは、未来を生きる子どもたちが多様な人々と共に生きる意識と力を高めてくれます。また、将来は日本以外にルーツをもつ多くの子どもたちが日本の住民、市民になるといわれています³⁾。社会全体でこれからの保育を考えてみませんか?

外国出身 保護者の声

先生や保護者の方々の努力に心から感謝しています。翻訳などで忙しくなり、皆さんの負担が増えることは望んでいません。自分で少しでも翻訳するなどしたいので、そのきっかけをもらえると嬉しいです。

日本人配偶者にも仕事があり、家でも外国人配偶者にすべていちから説明することは大変です。外国人配偶者であっても、他の保護者と同様に、自分の力で理解できる環境があると助かります。

日本語を 母語とする 配偶者の声